

はじめに

少子高齢化が進み、人口減少社会がいよいよ現実のものとなってきた中で、生活者の住まい事情や住まい観はどのような状態にあるのか。こうした問題意識のもと、昨年度、当研究所（大阪ガス株）エネルギー・文化研究所）が実施した生活意識調査の一部として、高齢期の住まい方に関する考え方や、実の親の死去や高齢による転居・長期入院・施設入所などによる空き家の発生状況などに関する問いを設けた。本稿では、その結果を簡単に紹介したい。

なお、本調査のサンプルは層化二段無作為抽出法によるもので、全国の満20歳から71歳の男女一六九一人（うち前回調査からの継続対象九九一人+新規対象者七〇〇人）を対象とし、有効回答一、六一一人（男性五一四人、女性六四七人）を得ている。無作為抽出ではある

高齢期の居住をめぐる 思いと現実

居住をめぐる生活者の意識と行動から 2007

弘本 由香里 *Written by Yukari Hiromoto*

が全数調査に比べると多少の差異が見られる。たとえば、本調査の有効回答者には、結果として20代が少ないことや、一人世帯が少ないこと、あるいは一戸建て比率や持ち家率が高いことなどである。回答者に若干の偏りがあることを念頭におきつつ、調査結果を眺めていきたい（図1、図2、図3、図4参照）。

回答者の居住特性

前記のとおり、本調査の結果を概観する上での前提として、回答者に持ち家・一戸建ての家族世帯が多いことが第一の特徴であるが、居住に関連する基本特性を見ておきたい。クロス集計の調整済み残差の絶対値を参考に、回答頻度の高低（2.0以上で高く、マイナス2.0以下で低い）を大まかにつかむこととする。

現在住んでいる住宅の建て方と回答者の年代の関係を見ると、一戸建て住宅は50代・60代で高い頻度を示し、低層（1〜2階建）の共同住宅は20代・30代で高い、また中層（3〜5階建）の共同住宅は30代で高いというほぼ一般的な傾向が見られる。

住宅の所有形態でも同様に、50代・60代で持ち家が高い頻度を示し、20代・30代で民間の賃貸住宅が高い。また、回答者としては僅かではあるが、70歳・71歳の回答者に、公的賃貸住宅の居住者に高い頻度が見られる。

住宅の建て方と未婚・既婚などの関係を見

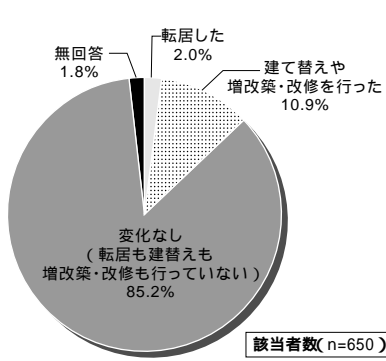


図5 第1回調査時(平成16年1~2月)に比べ住まいに変化があったか

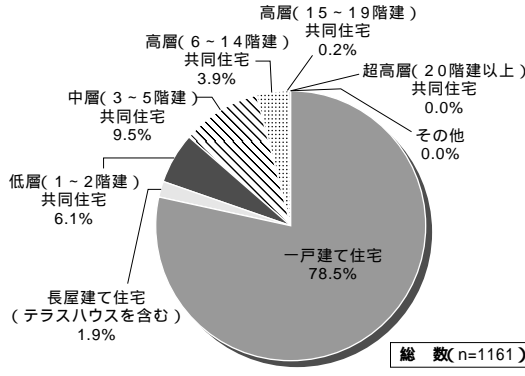


図3 住宅の建て方

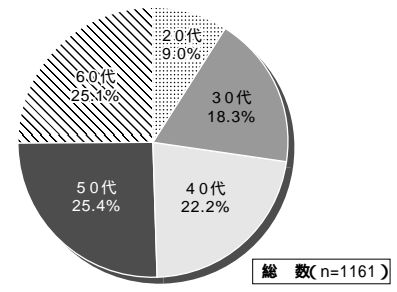


図1 年齢

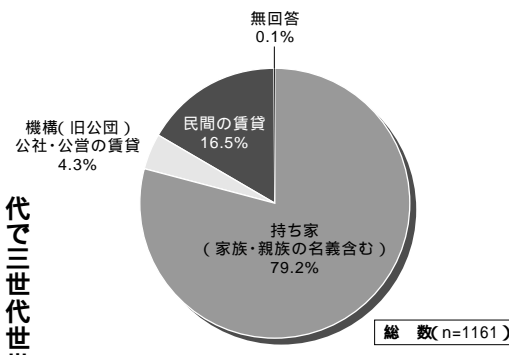


図4 住宅の所有形態

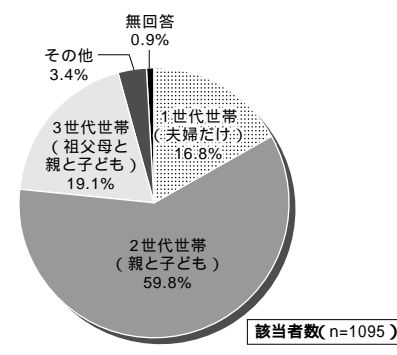


図2 世帯構成

代で三世帯世帯(祖父母と親と子ども)に高い頻度が見られる。あわせて、住宅の所有形態と世帯の構成を見ると、公的賃貸住宅に夫婦のみ世帯の頻度が高く、当然ながら三世帯世帯(祖父母と親と子ども)では持ち家の頻度が高いことがわかる。さらに、第一回調査時(二〇〇五年一~二月実施)と比べて、住まいに変化があったかどうかについては、該当する回答者六五〇人のうち、転居したのが二〇%、「建て替えや増改築・改修を行った」が一〇・九%である(図5参照)。年

代で三世帯世帯(祖父母と親と子ども)に高い頻度が見られる。あわせて、住宅の所有形態と世帯の構成を見ると、公的賃貸住宅に夫婦のみ世帯の頻度が高く、当然ながら三世帯世帯(祖父母と親と子ども)では持ち家の頻度が高いことがわかる。さらに、第一回調査時(二〇〇五年一~二月実施)と比べて、住まいに変化があったかどうかについては、該当する回答者六五〇人のうち、転居したのが二〇%、「建て替えや増改築・改修を行った」が一〇・九%である(図5参照)。年

ると、一戸建て住宅は既婚者に高い頻度が見られるものの、配偶者と離別・死別の場合には、一戸建て住宅の頻度が低いことがわかる。また、長屋建て住宅では、配偶者と離別・死別のケースが高い頻度を示している。一方、低層(一~二階建)共同住宅では未婚のケースが高い。

高齢期の住まい方への思い

代との関係を見ると、「転居」は二〇代で高い頻度を示し、「建て替えや増改築・改修」は六〇代で高い。

総じて、一戸建ての持ち家に暮らす高齢の夫婦世帯が増加している一方で、配偶者と離別・死別のケースでは、一戸建てに暮らす頻度が低い傾向がある。人口の高齢化とともに、いやおうなく多死社会を迎えざるを得ない。今後明らかに高齢の一人暮らし世帯が増えていく中で、生活者はどのような住宅選択をしていくことになるのだろうか。

「高齢期の住まい方に関するいくつかのこと(以下記のA~Iの項目)についてどのように思うか。現在すでにそうしている場合を含め、あなたの考えをお答えください」との問いへの回答を、項目ごとに紹介する(次頁図6参照)。

A: 現在の住まいで安心して住み続けられるように、体が不自由になる前から住まいの改修をおきたいと思うかの問いには、「そう思う」とどちらかといえばそう思う「が五二・九%。そう思わない」とどちらかといえばそう思わない「が一八・七%。そう思う「や」とどちらかといえばそう思う」との回答頻度は、当然ながら一戸建て・持ち家のケースで高く、公的賃貸住宅や民間賃貸住宅で低い(次頁表1、表2参照)。

B: 現在の住まい・居住地で安心して住み

住まい生活意識に見る現実と課題

続けられるように、地域福祉活動に積極的に取り組んでおきたい」と思うかの問いには、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が四六・九%、「そう思わない+どちらかといえばそう思わない」が一四・〇%、「こゝでも」どちらかといえは「そう思う」の回答頻度が一戸建てのケースで高く、「そう思わない」の回答頻度が中層(三〜五階建)共同住宅・高層(六〜一四階建)共

同住宅のケースで高い。同様に「そう思う」や「どちらかといえはそう思う」が持ち家のケースで高く、「そう思わない」が民間賃貸住宅のケースで高い(表3、表4参照)。「こゝでも」体が不自由になっても住宅の医療・福祉サービスを受けながら住み慣れた自宅に住み続けたい」と思うかの問いには、「そう思

う+どちらかといえはそう思う」が六三・四%、「そう思わない+どちらかといえはそう思わない」が九・九%、「こゝでも」持ち家の場合に、「そう思う」や「どちらかといえはそう思う」の回答

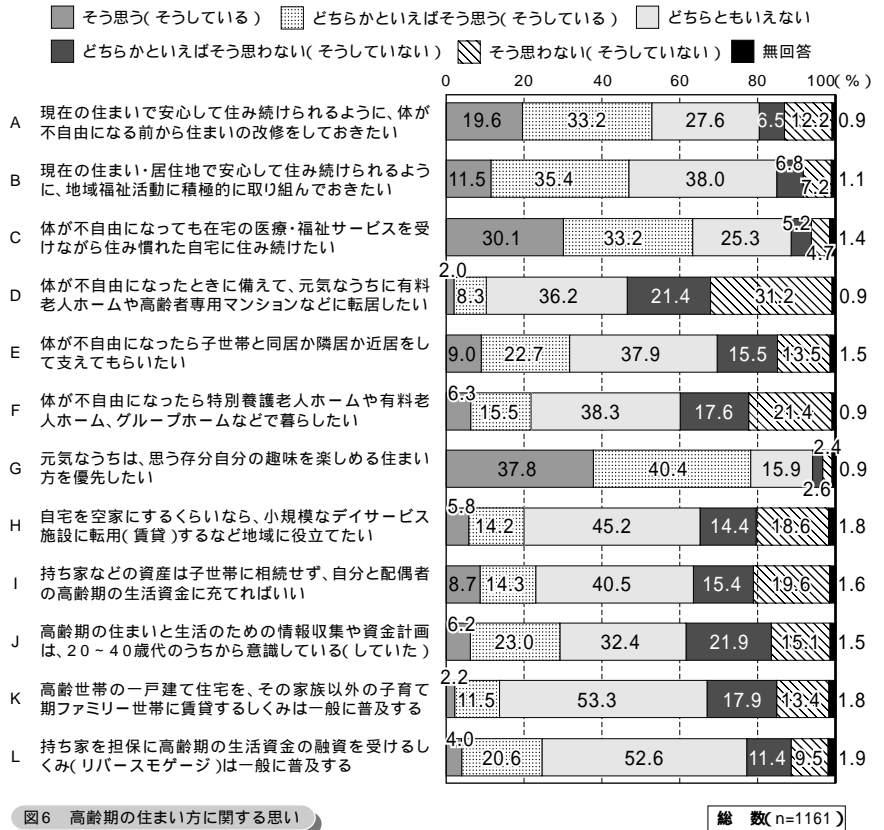


図6 高齢期の住まい方に関する思い

表1 「A:現在の住まいで安心して住み続けられるように、体が不自由になる前から住まいの改修をしておきたい」と「住宅の建て方」の関係

		A:現在の住まいで安心して住み続けられるように、体が不自由になる前から住まいの改修をしておきたい							
		そう思う(そうしている)	どちらかといえばそう思う(そうしている)	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない(そうしていない)	そう思わない(そうしていない)	無回答	合計	
住宅の建て方	一戸建て住宅	度数	193	317	251	55	89	6	911
		%	21.2%	34.8%	27.6%	6.0%	9.8%	.7%	100.0%
	長屋建て住宅(テラスハウス含む)	調整済み残差	2.5	2.1	.0	-1.1	-4.9	-1.4	
		度数	3	7	8	0	4	0	22
	低層(1-2階建)共同住宅	%	13.6%	31.8%	36.4%	.0%	18.2%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.7	-.1	.9	-1.2	.9	-.4	
	中層(3-5階建)共同住宅	度数	8	19	15	6	21	2	71
		%	11.3%	26.8%	21.1%	8.5%	29.6%	2.8%	100.0%
	高層(6-14階建)共同住宅	調整済み残差	-1.8	-1.2	-1.3	.7	4.6	1.8	
		度数	17	28	31	11	21	2	110
	高層(15-19階建)共同住宅	%	15.5%	25.5%	28.2%	10.0%	19.1%	1.8%	100.0%
		調整済み残差	-1.2	-1.8	.2	1.6	2.3	1.1	
合計	度数	7	13	15	3	7	0	45	
	%	15.6%	28.9%	33.3%	6.7%	15.6%	.0%	100.0%	
合計	調整済み残差	-.7	-.6	.9	.1	.7	-.6		
	度数	0	2	0	0	0	0	2	
合計	%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%	
	調整済み残差	-.7	2.0	-.9	-.4	-.5	-.1		
合計	度数	228	386	320	75	142	10	1161	
合計	%	19.6%	33.2%	27.6%	6.5%	12.2%	.9%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.001

表2 「A:現在の住まいで安心して住み続けられるように、体が不自由になる前から住まいの改修をしておきたい」と「住宅の所有形態」の関係

		A:現在の住まいで安心して住み続けられるように、体が不自由になる前から住まいの改修をしておきたい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	194	339	252	56	73	5	919
		%	21.1%	36.9%	27.4%	6.1%	7.9%	.5%	100.0%
		調整済み残差	2.5	5.1	-2	-1.0	-8.7	-2.3	
	公的賃貸住宅	度数	10	8	15	4	11	2	50
		%	20.0%	16.0%	30.0%	8.0%	22.0%	4.0%	100.0%
		調整済み残差	.1	-2.6	.4	.5	2.2	2.5	
	民間賃貸住宅	度数	24	39	53	15	57	3	191
		%	12.6%	20.4%	27.7%	7.9%	29.8%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.7	-4.1	.1	.9	8.1	1.2	
	無回答	度数	0	0	0	0	1	0	1
		%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.5	-.7	-.6	-.3	2.7	-.1	
合計	度数	228	386	320	75	142	10	1161	
	%	19.6%	33.2%	27.6%	6.5%	12.2%	.9%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.000

表3 「B:現在の住まい・居住地で安心して住み続けられるように、地域福祉活動に積極的に取り組んでおきたい」と「住宅の建て方」の関係

		B:現在の住まい・居住地で安心して住み続けられるように、地域福祉活動に積極的に取り組んでおきたい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の建て方	一戸建て住宅	度数	113	339	339	60	50	10	911
		%	12.4%	37.2%	37.2%	6.6%	5.5%	1.1%	100.0%
		調整済み残差	1.9	2.5	-1.0	-6	-4.4	-1	
	長屋建て住宅 (テラスハウス含む)	度数	1	10	9	1	1	0	22
		%	4.5%	45.5%	40.9%	4.5%	4.5%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	1.0	.3	-.4	-.5	-.5	
	低層(1~2階建) 共同住宅	度数	6	15	34	6	8	2	71
		%	8.5%	21.1%	47.9%	8.5%	11.3%	2.8%	100.0%
		調整済み残差	-.8	-2.6	1.8	.6	1.4	1.4	
	中層(3~5階建) 共同住宅	度数	11	31	40	10	17	1	110
		%	10.0%	28.2%	36.4%	9.1%	15.5%	.9%	100.0%
		調整済み残差	-.5	-1.7	-.4	1.0	3.5	-.2	
	高層(6~14階建) 共同住宅	度数	2	14	19	2	8	0	45
		%	4.4%	31.1%	42.2%	4.4%	17.8%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.5	-.6	.6	-.6	2.8	-.7	
	高層(15~19階建) 共同住宅	度数	0	2	0	0	0	0	2
		%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.5	1.9	-1.1	-.4	-.4	-.2	
合計	度数	133	411	441	79	84	13	1161	
	%	11.5%	35.4%	38.0%	6.8%	7.2%	1.1%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.009

表4 「B:現在の住まい・居住地で安心して住み続けられるように、地域福祉活動に積極的に取り組んでおきたい」と「住宅の所有形態」の関係

		B:現在の住まい・居住地で安心して住み続けられるように、地域福祉活動に積極的に取り組んでおきたい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	114	344	348	60	44	9	919
		%	12.4%	37.4%	37.9%	6.5%	4.8%	1.0%	100.0%
		調整済み残差	2.0	2.8	-.2	-.7	-6.3	-.9	
	公的賃貸住宅	度数	6	15	15	6	7	1	50
		%	12.0%	30.0%	30.0%	12.0%	14.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	.1	-.8	-1.2	1.5	1.9	.6	
	民間賃貸住宅	度数	13	51	78	13	33	3	191
		%	6.8%	26.7%	40.8%	6.8%	17.3%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	-2.8	.9	.0	5.9	.6	
	無回答	度数	0	1	0	0	0	0	1
		%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.4	1.4	-.8	-.3	-.3	-.1	
合計	度数	133	411	441	79	84	13	1161	
	%	11.5%	35.4%	38.0%	6.8%	7.2%	1.1%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.000

頻度が高いとともに、年代で見ると、六〇代と七〇歳七十一歳で「そう思う」が高いことがわかる(次頁表5、表6参照)。
「D:体が不自由になつたときに備えて、元氣

なうちに有料老人ホームや高齢者専用マンションなどに転居したい」と思うかの問いには、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」が一〇・二%、「そう思わない」+「どちらかといえばそう

思わない」が五二・六%。当然ながら、一戸建て住宅のケースでは、「そう思わない」や「どちらかといえばそう思わない」の回答頻度が高く、中層(三~五階建)共同住宅のケースで「そう思

表5 「C:体が不自由になっても在宅の医療・福祉サービスを受けながら住み慣れた自宅に住み続けたい」と「住宅の所有形態」の関係

		C:体が不自由になっても在宅の医療・福祉サービスを受けながら住み慣れた自宅に住み続けたい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	297	319	226	40	27	10	919
		%	32.3%	34.7%	24.6%	4.4%	2.9%	1.1%	100.0%
	公的賃貸住宅	調整済み残差	3.1	2.1	-1.1	-2.4	-5.6	-1.7	
		度数	20	10	13	3	3	1	50
	民間賃貸住宅	%	40.0%	20.0%	26.0%	6.0%	6.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	1.6	-2.0	.1	.3	.4	.4	
	民間賃貸住宅	度数	33	57	54	17	25	5	191
		%	17.3%	29.8%	28.3%	8.9%	13.1%	2.6%	100.0%
	無回答	調整済み残差	-4.2	-1.1	1.0	2.5	5.9	1.6	
		度数	0	0	1	0	0	0	1
	無回答	%	.0%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	-1.7	1.7	-2	-2	-1	
合計	度数	350	386	294	60	55	16	1161	
	%	30.1%	33.2%	25.3%	5.2%	4.7%	1.4%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.000

表6 「C:体が不自由になっても在宅の医療・福祉サービスを受けながら住み慣れた自宅に住み続けたい」と「年代」の関係

		C:体が不自由になっても在宅の医療・福祉サービスを受けながら住み慣れた自宅に住み続けたい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
年代	20代	度数	21	39	31	7	4	2	104
		%	20.2%	37.5%	29.8%	6.7%	3.8%	1.9%	100.0%
	30代	調整済み残差	-2.3	1.0	1.1	.8	-.4	.5	
		度数	47	74	59	14	19	0	213
	30代	%	22.1%	34.7%	27.7%	6.6%	8.9%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.8	.5	.9	1.0	3.2	-1.9	
	40代	度数	69	85	75	15	11	3	258
		%	26.7%	32.9%	29.1%	5.8%	4.3%	1.2%	100.0%
	40代	調整済み残差	-1.4	-1.1	1.6	.5	-.4	-.3	
		度数	90	97	73	14	15	6	295
	50代	%	30.5%	32.9%	24.7%	4.7%	5.1%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	.2	-.2	-.3	-.4	.3	1.1	
	60代	度数	109	86	54	9	6	5	269
		%	40.5%	32.0%	20.1%	3.3%	2.2%	1.9%	100.0%
	60代	調整済み残差	4.2	-.5	-2.3	-1.5	-2.2	.8	
		度数	14	5	2	1	0	0	22
	70代	%	63.6%	22.7%	9.1%	4.5%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	3.5	-1.1	-1.8	-1.1	-1.1	-.6	
合計	度数	350	386	294	60	55	16	1161	
	%	30.1%	33.2%	25.3%	5.2%	4.7%	1.4%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.000

表7 「D:体が不自由になったときに備えて、元気なうちに有料老人ホームや高齢者専用マンションなどに転居したい」と「住宅の建て方」の関係

		D:体が不自由になったときに備えて、元気なうちに有料老人ホームや高齢者専用マンションなどに転居したい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の建て方	一戸建て住宅	度数	13	69	313	210	298	8	911
		%	1.4%	7.6%	34.4%	23.1%	32.7%	.9%	100.0%
	一戸建て住宅	調整済み残差	-2.6	-1.6	-2.5	2.5	2.2	-.5	
		度数	0	5	10	2	5	0	22
	長屋建て住宅 (テラスハウス含む)	%	.0%	22.7%	45.5%	9.1%	22.7%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.7	2.5	.9	-1.4	-.9	-.5	
	低層(1~2階建) 共同住宅	度数	3	7	33	7	19	2	71
		%	4.2%	9.9%	46.5%	9.9%	26.8%	2.8%	100.0%
	低層(1~2階建) 共同住宅	調整済み残差	1.4	.5	1.9	-2.5	-.8	1.7	
		度数	5	11	46	20	27	1	110
	中層(3~5階建) 共同住宅	%	4.5%	10.0%	41.8%	18.2%	24.5%	.9%	100.0%
		調整済み残差	2.0	.7	1.3	-.9	-1.6	.0	
	高層(6~14階建) 共同住宅	度数	2	3	17	10	13	0	45
		%	4.4%	6.7%	37.8%	22.2%	28.9%	.0%	100.0%
	高層(6~14階建) 共同住宅	調整済み残差	1.2	-.4	.2	.1	-.3	-.7	
		度数	0	1	1	0	0	0	2
	高層(15~19階建) 共同住宅	%	.0%	50.0%	50.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.2	2.1	.4	-.7	-1.0	-.1	
合計	度数	23	96	420	249	362	11	1161	
	%	2.0%	8.3%	36.2%	21.4%	31.2%	.9%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.032

「C」が高い。同様に、持ち家のケースでは、「そう思わない」「や」とどちらかといえば「そう思わない」が高く、公的賃貸住宅や民間賃貸住宅のケースで、「そう思う」「や」とどちらかといえば「そう思う」が高い(表7、表8参照)。

「E」体が不自由になつたら子世帯と同居が近居をして支えてもらいたい」と思うかの問いには、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」が三一・六%、「そう思わない」+「どちらかといえ

「F」体が不自由になつたら特別養護老人ホームや有料老人ホーム、グループホームなどで暮らしたい」と思うかの問いには、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」が二一・八%、「そう思わない」+「どちらかといえ

表8 「D:体が不自由になったときに備えて、元気なうちに有料老人ホームや高齢者専用マンションなどに転居したい」と「住宅の所有形態」の関係

		D:体が不自由になったときに備えて、元気なうちに有料老人ホームや高齢者専用マンションなどに転居したい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	12	68	310	216	306	7	919
		%	1.3%	7.4%	33.7%	23.5%	33.3%	.8%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	-2.1	-3.4	3.3	3.0	-1.3	
	公的賃貸住宅	度数	5	3	22	5	14	1	50
		%	10.0%	6.0%	44.0%	10.0%	28.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	4.2	-6	1.2	-2.0	-5	.8	
	民間賃貸住宅	度数	6	25	87	28	42	3	191
		%	3.1%	13.1%	45.5%	14.7%	22.0%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	1.3	2.6	2.9	-2.5	-3.0	1.0	
	無回答	度数	0	0	1	0	0	0	1
		%	.0%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-1	-3	1.3	-5	-7	-1	
合計	度数	23	96	420	249	362	11	1161	
	%	2.0%	8.3%	36.2%	21.4%	31.2%	.9%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.000

表9 「F:体が不自由になったら特別養護老人ホームや有料老人ホーム、グループホームなどで暮らしたい」と「住宅の所有形態」の関係

		F:体が不自由になったら特別養護老人ホームや有料老人ホーム、グループホームなどで暮らしたい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	54	136	339	171	214	5	919
		%	5.9%	14.8%	36.9%	18.6%	23.3%	.5%	100.0%
		調整済み残差	-1.1	-1.3	-2.0	1.8	3.0	-2.3	
	公的賃貸住宅	度数	4	7	24	7	7	1	50
		%	8.0%	14.0%	48.0%	14.0%	14.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	.5	-.3	1.4	-7	-1.3	.9	
	民間賃貸住宅	度数	14	37	82	26	28	4	191
		%	7.3%	19.4%	42.9%	13.6%	14.7%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	.6	1.6	1.4	-1.6	-2.5	2.0	
	無回答	度数	1	0	0	0	0	0	1
		%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	3.9	-.4	-.8	-5	-5	-.1	
合計	度数	73	180	445	204	249	10	1161	
	%	6.3%	15.5%	38.3%	17.6%	21.4%	.9%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.002

表10 「G:元気なうちは、思う存分自分の趣味を楽しめる住まい方を優先したい」と「住宅の所有形態」の関係

		G:元気なうちは、思う存分自分の趣味を楽しめる住まい方を優先したい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	341	392	142	22	16	6	919
		%	37.1%	42.7%	15.5%	2.4%	1.7%	.7%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	3.1	-.9	-.8	-2.9	-1.5	
	公的賃貸住宅	度数	26	11	10	1	1	1	50
		%	52.0%	22.0%	20.0%	2.0%	2.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	2.1	-2.7	.8	-.3	-.2	.9	
	民間賃貸住宅	度数	71	66	33	7	11	3	191
		%	37.2%	34.6%	17.3%	3.7%	5.8%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	-.2	-1.8	.6	1.0	3.3	1.2	
	無回答	度数	1	0	0	0	0	0	1
		%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	1.3	-.8	-.4	-.2	-.2	-.1	
合計	度数	439	469	185	30	28	10	1161	
	%	37.8%	40.4%	15.9%	2.6%	2.4%	.9%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.035

三九・〇%。ここでも、持ち家のケースで「そう思わない」の回答頻度が高く、民間賃貸住宅のケースで低い(表9参照)。

「G:元気なうちは、思う存分自分の趣味を

楽しめる住まい方を優先したい」と思うかの問いには、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が七八・二%、「そう思わない+どちらかといえ

ばそう思わない」が五・〇%。民間賃貸のケース(表10参照)。

「H:自宅を空き家にするくらいなら、小規

表11 「I:持ち家などの資産は子世帯に相続せず、自分と配偶者の高齢期の生活資金に充てればいい」と「世帯構成」の関係

		I:持ち家などの資産は子世帯に相続せず、自分と配偶者の高齢期の生活資金に充てればいい							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
世帯構成	夫婦のみ世帯	度数	24	38	66	19	34	3	184
		%	13.0%	20.7%	35.9%	10.3%	18.5%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	2.3	2.7	-1.4	-2.1	-.4	.1	
	2世代世帯 (親と子)	度数	64	100	267	113	99	12	655
		%	9.8%	15.3%	40.8%	17.3%	15.1%	1.8%	100.0%
		調整済み残差	1.5	1.1	.2	2.0	-4.3	.9	
	3世代世帯 (祖父母と親と子)	度数	6	12	90	33	65	3	209
		%	2.9%	5.7%	43.1%	15.8%	31.1%	1.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	-3.9	.8	.2	4.6	-.1	
	その他	度数	2	4	12	8	11	0	37
		%	5.4%	10.8%	32.4%	21.6%	29.7%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.7	-.6	-1.0	1.1	1.6	-.8	
	不明	度数	5	11	29	5	16	0	66
		%	7.6%	16.7%	43.9%	7.6%	24.2%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.3	.6	.6	-1.8	1.0	-1.0	
	無回答	度数	0	1	6	1	2	0	10
		%	.0%	10.0%	60.0%	10.0%	20.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	-.4	1.3	-.5	.0	-.4	
合計	度数	101	166	470	179	227	18	1161	
	%	8.7%	14.3%	40.5%	15.4%	19.6%	1.6%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.000

表12 「J:高齢期の住まいと生活のための情報収集や資金計画は、20~40歳代のうちから意識している(していた)」と「性別」の関係

		J:高齢期の住まいと生活のための情報収集や資金計画は、20~40歳代のうちから意識している(していた)							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
性別	男性	度数	37	103	151	138	80	5	514
		%	7.2%	20.0%	29.4%	26.8%	15.6%	1.0%	100.0%
		調整済み残差	1.3	-2.1	-2.0	3.7	.4	-1.2	
	女性	度数	35	164	225	116	95	12	647
		%	5.4%	25.3%	34.8%	17.9%	14.7%	1.9%	100.0%
		調整済み残差	-1.3	2.1	2.0	-3.7	-.4	1.2	
合計	度数	72	267	376	254	175	17	1161	
	%	6.2%	23.0%	32.4%	21.9%	15.1%	1.5%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.001

表13 「J:高齢期の住まいと生活のための情報収集や資金計画は、20~40歳代のうちから意識している(していた)」と「世帯構成」の関係

		J:高齢期の住まいと生活のための情報収集や資金計画は、20~40歳代のうちから意識している(していた)							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
世帯構成	夫婦のみ世帯	度数	20	51	46	29	34	4	184
		%	10.9%	27.7%	25.0%	15.8%	18.5%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	2.9	1.7	-2.3	-2.2	1.4	.9	
	2世代世帯 (親と子)	度数	31	140	218	163	92	11	655
		%	4.7%	21.4%	33.3%	24.9%	14.0%	1.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	-1.5	.7	2.8	-1.1	.7	
	3世代世帯 (祖父母と親と子)	度数	13	57	73	37	28	1	209
		%	6.2%	27.3%	34.9%	17.7%	13.4%	.5%	100.0%
		調整済み残差	.0	1.6	.9	-1.6	-.7	-1.3	
	その他	度数	4	5	15	6	7	0	37
		%	10.8%	13.5%	40.5%	16.2%	18.9%	.0%	100.0%
		調整済み残差	1.2	-1.4	1.1	-.8	.7	-.8	
	不明	度数	2	11	21	18	13	1	66
		%	3.0%	16.7%	31.8%	27.3%	19.7%	1.5%	100.0%
		調整済み残差	-1.1	-1.3	-.1	1.1	1.1	.0	
	無回答	度数	2	3	3	1	1	0	10
		%	20.0%	30.0%	30.0%	10.0%	10.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	1.8	.5	-.2	-.9	-.5	-.4	
合計	度数	72	267	376	254	175	17	1161	
	%	6.2%	23.0%	32.4%	21.9%	15.1%	1.5%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.019

模なデイサービス施設に転用するなど地域に
役立てたい」と思うかの問いには、そう思う+
どちらかといえばそう思う」が二〇・〇%、そ
う思わない+どちらかといえばそう思わない」
が三三・〇%。

「I:持ち家などの資産は子世帯に相続せ
ず、自分と配偶者の高齢期の生活資金に充て
ればいい」と思うかの問いには、そう思う+ど
ちらかといえばそう思う」が三三・〇%、そ
う思わない+どちらかといえばそう思わない」が

三五・〇%。当然かもしれないが、夫婦のみ世帯
で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」
の回答頻度が高く、三世代世帯(祖父母と親と
子ども)では低い(表11参照)。

「J:高齢期の住まいと生活のための情報収

表14 「K:高齢世帯の一戸建て住宅を、その家族以外の子育て期ファミリー世帯に賃貸するしくみは一般に普及する」と「住宅の建て方」の関係

		K:高齢世帯の一戸建て住宅を、その家族以外の子育て期ファミリー世帯に賃貸するしくみは一般に普及する							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の建て方	一戸建て住宅	度数	15	93	488	173	128	14	911
		%	1.6%	10.2%	53.6%	19.0%	14.1%	1.5%	100.0%
		調整済み残差	-2.3	-2.5	.3	1.8	1.3	-1.3	
	長屋建て住宅 (テラスハウス含む)	度数	1	3	13	1	3	1	22
		%	4.5%	13.6%	59.1%	4.5%	13.6%	4.5%	100.0%
		調整済み残差	.8	.3	.5	-1.7	.0	1.0	
	低層(1~2階建) 共同住宅	度数	1	14	36	10	6	4	71
		%	1.4%	19.7%	50.7%	14.1%	8.5%	5.6%	100.0%
		調整済み残差	-.4	2.3	-.5	-.9	-1.3	2.5	
	中層(3~5階建) 共同住宅	度数	8	17	53	17	13	2	110
		%	7.3%	15.5%	48.2%	15.5%	11.8%	1.8%	100.0%
		調整済み残差	3.9	1.4	-1.1	-1.7	-1.5	.0	
	高層(6~14階建) 共同住宅	度数	0	6	27	7	5	0	45
		%	.0%	13.3%	60.0%	15.6%	11.1%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	.4	.9	-.4	-.5	-.9	
	高層(15~19階建) 共同住宅	度数	0	0	2	0	0	0	2
		%	.0%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.2	-.5	1.3	-.7	-.6	-.2	
合計	度数	25	133	619	208	155	21	1161	
	%	2.2%	11.5%	53.3%	17.9%	13.4%	1.8%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.029

表15 「K:高齢世帯の一戸建て住宅を、その家族以外の子育て期ファミリー世帯に賃貸するしくみは一般に普及する」と「住宅の所有形態」の関係

		K:高齢世帯の一戸建て住宅を、その家族以外の子育て期ファミリー世帯に賃貸するしくみは一般に普及する							
		そう思う (そうしている)	どちらかといえば そう思う (そうしている)	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない (そうしていない)	そう思わない (そうしていない)	無回答	合計	
住宅の所有形態	持ち家	度数	15	94	486	177	134	13	919
		%	1.6%	10.2%	52.9%	19.3%	14.6%	1.4%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	-2.6	-.6	2.3	2.4	-2.0	
	公的賃貸住宅	度数	4	8	25	6	6	1	50
		%	8.0%	16.0%	50.0%	12.0%	12.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	2.9	1.0	-.5	-1.1	-.3	.1	
	民間賃貸住宅	度数	6	31	107	25	15	7	191
		%	3.1%	16.2%	56.0%	13.1%	7.9%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	1.0	2.3	.8	-1.9	-2.4	2.1	
	無回答	度数	0	0	1	0	0	0	1
		%	.0%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
		調整済み残差	-.1	-.4	.9	-.5	-.4	-.1	
合計	度数	25	133	619	208	155	21	1161	
	%	2.2%	11.5%	53.3%	17.9%	13.4%	1.8%	100.0%	

カイ2乗検定、漸近有意確立(両側)0.008

集や資金計画は二〇〜四〇歳代のうちから意識している)としていた。「と思うかの問い」には、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が一九・二%、「そう思わない+どちらかといえばそ

う思わない」が三七〇%、「」では男女間で回答に違いが見られる。男性では「どちらかといえばそう思わない」の回答頻度が高いが女性には逆で、「どちらかといえばそう思わない」が

低い。また、夫婦のみ世帯で「そう思う」が高いのに対して、「二世帯(世帯)親(子ども)では「そう思う」が低い(表12、表13参照)。

「K:高齢世帯の一戸建て住宅を、その家族以外の子育て期ファミリー世帯に賃貸するしくみは一般に普及する」と思うかの問いには、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が二三・六%、「そう思わない+どちらかといえばそう思わない」が三一・三%。「一戸建て住宅のケース」「そう思う」「や」「どちらかといえばそう思う」の回答頻度が低いのに対して、中層(三〜五階建)共同住宅のケースで「そう思う」「や」「どちらかといえばそう思う」が高い。同様に、持ち家のケースで「そう思う」「や」「どちらかといえばそう思う」が低く、「そう思わない」「や」「どちらかといえばそう思わない」が高いのに対して、公的賃貸住宅や民間賃貸住宅のケースでは「そう思う」「や」「どちらかといえばそう思う」が高い(表14、表15参照)。

「L:持ち家を担保に高齢期の生活資金の融資を受けるしくみ(リバースモーゲージ)は一般に普及する」と思うかの問いには、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が二四・六%、「そう思わない+どちらかといえばそう思わない」が二〇・八%であった。

高齢期の住まい方への思いの中で最も顕著にうかがえるのは、回答者の多数を占める一戸建て・持ち家層による、住み慣

れた自宅に住み続けることへの強い思い入れがある。しかし、こうした希望を現実のものにしていくには、地域レベルでの福祉サービスの充実が不可欠であることも明らかな課題として受け止めざるを得ないだろう。一戸建て・持ち家層では、住み続けていくために、地域活動への参加などへの前向きな意識はあるものの、プライベートな資産である住宅を社会的な資産として活用するまでの積極的な意識はあまり見られず、社会的なニーズとストックのマッチングを促すシステムの整備や意識の転換が進んでいない状況がうかがえる。

居住をめぐる親との関係

では現実には、居住をめぐる親との関係はどのような状況にあるのか。回答結果を簡単に報告する。

まず、回答者の実の親の年齢を見ておく。父親は、「死去」が五一・七%、「八五歳以上」が三三%、「七五〜八四歳」が三三・〇%、「六五〜七四歳」が一五・六%。母親は、「死去」が三三・二%、「八五歳以上」が八・七%、「七五〜八四歳」が一七・五%、「六五〜七四歳」が一八・九%である。父親・母親あわせて約八割が、六五歳以上もしくは死去しているという状況である(図7参照)。

実の親との同居の有無については、「父親・母親両方と同居」が二〇・三%、「片親は死去、も

う一方の親とは同居」が二二・一%、「片親とは同居、もう一方の親とは別居」が一〇%、「片親は死去、もう一方の親とは別居」が二六・九%、「両親と別居(父親と母親が同居していない場合も含む)」が三八・二%、無回答が一・六%。三三・四%が両親もしくは一方の親と同居している(図8参照)。

同居しているケース

では、「親の長年住み慣れた住まいに子世帯が同居している」が八九・一%、「親が子世帯の住まいに移って同居し始めた」が八・〇%。一方、別居しているケースでは、「親が長年住み慣れた住まいに住み続けている」が七九・二%、「親があなたのきょうだいの住まいに移って同居している」が八・六%、「親が住まいを子世帯の近くに移動して隣居・近居している」が五・八%、「有料老人ホーム・ケアハウス・高齢者専用マンション・グループホーム・シルバーハウジングなどへ転居している」が一・八%、「特別養護老人ホーム

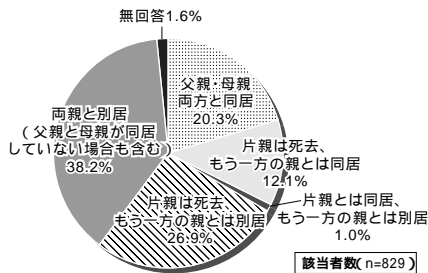


図8 現在実の親と同居(二世帯住宅を含む)しているか

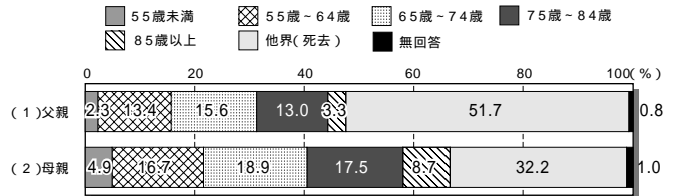


図7 実の両親の年齢

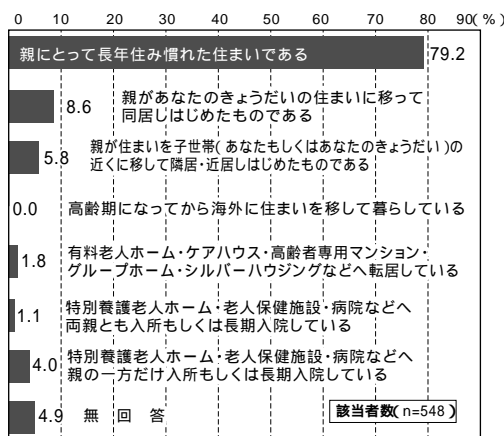


図9 実の親との同居のありようは

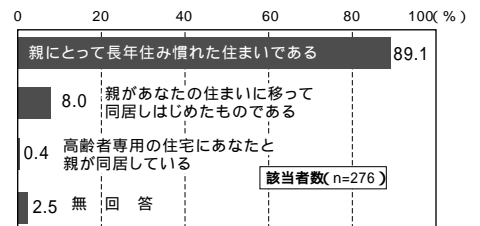


図10 実の親との別居のありようは

老人保健施設、病院などへ両親とも入所もしくは長期入院している」が一・一%、「特別養護老人ホーム、老人保健施設、病院などへ親の一方だけ入所もしくは長期入院している」が四・〇%、無回答四・九%であった(図9、図10参照)。

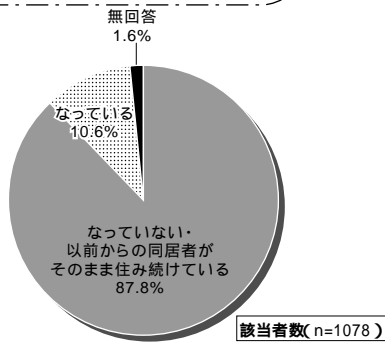


図12 実の親の死去や高齢による転居・入院・入所等により、親の家が空き家もしくはほぼ空き家状態になったり、別の人が住んだり、以前と違う状態になっているか

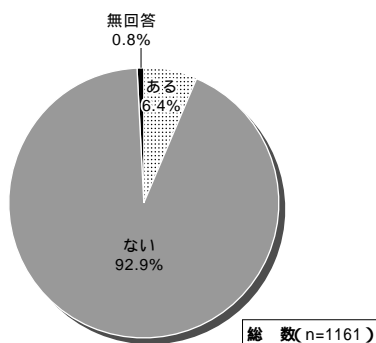


図11 実の親の死去や高齢による転居・長期入院・施設入所等により、親の家を処分したことがあるか

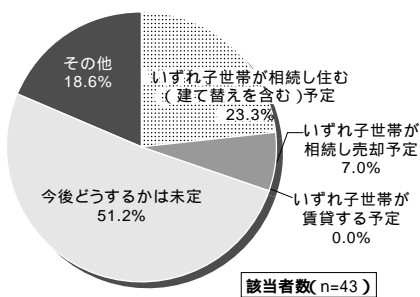


図14 「ほぼ空き家もしくは完全に空き家状態」の親の家は今後どうするつもりか

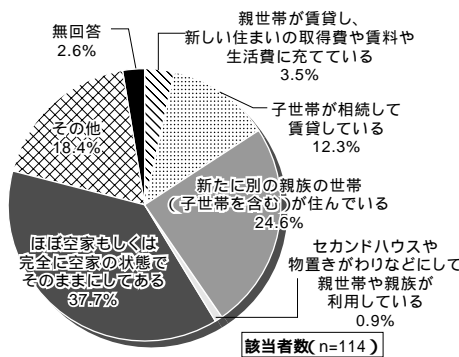


図13 図12で「なっている」とされた親の家は、今のような状態にあるか

老親の住まいの行方

「実の親の死去あるいは高齢による転居・長期入院・施設入所などをきょうかけに、親自身やあなたのきょうだいが、それまで親世帯が住ん

でいた家の処分・持ち家の売却や借りていた家の契約解除)をしたことがありますか」との問いに対して、「ある」が六・四%、「ない」が九二・九%、無回答が〇・八%であった(図11参照)。

しかし、「ない」と回答した人(九二・九%)のうちの一〇・六%(五〇代では一四・二%、六〇代では一七・一%)が、「それまで親世帯が住んでいた家が、空き家もしくはほぼ空き家の状態になったり、別の人が住んだり、以前とは違う状態になっている」と答えている。「その家は今どのような状態になっているか」については、「ほぼ空き家もしくは完全に空き家の状態である」が三七・七%で最も多く、「新たに別の親族の世帯(子世帯を含む)が住んでいる」(二四・六%)や、「子世帯が相続して賃貸している」(一二・三%)を上回っている(図12、図13参照)。

「ほぼ空き家もしくは完全に空き家の状態であるままにして」と回答した人に、

「その家は今後どうするつもりですか」と聞いたところ、「今後どうするかは未定」との回答が五一・二%を占め、「いずれ子世帯が相続し住む(建て替えを含む)予定」(二三・三%)や、「いずれ子世帯が相続し売却する予定」(七・〇%)を遙かに上回っている。少子高齢化の進行とともに、使途の定まらない空き家が増加しつつある現状がうかがえる(図14参照)。

おわりに

高齢期の住まい方への思いに見られた住み慣れた持ち家で住み続けることへの強いこだわりと、現実には親の死去や高齢による転居・長期入院・施設入所などをきょうかけにした、空き家が増加しつつある状況を重ね合わせてみよう。思うに、「そこに見えてくるのは、自分の家に住み続けたい」という願いを持っていながら、最終的に高齢者本人の意に反して住み慣れた住まいを離れざるを得ない事態が起き、高齢者本人も親族も社会も、納得のいく形で空き家を活かしていく手段を持ち得ていないという現実でもある。回答者の戸惑いにつながるにつけ、高齢者本人も親族も社会も納得のいく形で安心できる住まいを得て、住宅ストックを活かすことができる地域福祉政策と一体で少子高齢化の居住を支えるしくみを作り上げていく必要性を改めて痛感する。

(大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 客員研究員)

CEL